



TITLE:

小賣企業に於ける棚卸見切賣出

AUTHOR(S):

大塚, 一朗

CITATION:

大塚, 一朗. 小賣企業に於ける棚卸見切賣出. 經濟論叢 1932, 34(2): 460-464

ISSUE DATE:

1932-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130137>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

經濟論叢

號 二 第

卷四十三第

行發日一月二年七和昭

論 叢

政府の營繕購品制度 法學博士 神戸 正雄
蓄積理論の一考察 文學博士 高田 保馬
人間學的社會哲學 文學博士 米田庄太郎

時 論

金輸出再禁止後の財界と財政 經濟學博士 汐見 三郎

研 究

我が國の都市經費と都市人口 經濟學士 小山田 小七
大量觀察代用法に就いて 經濟學士 蜷川 虎三
歴史的發展に於いて見たる世界不況 經濟學士 松岡 孝兒
助郷制度に就いて 經濟學士 黒羽兵治郎

說 苑

恩師シヤンツ教授を悼む 法學博士 神戸 正雄
瑞西の穀物專賣制 經濟學士 八木芳之助
小賣企業に於ける棚卸見切賣出 經濟學士 大塚 一朗

附 錄

新着外國經濟雜誌主要論題

小賣企業に於ける棚卸

見切賣出

大塚 一朗

はしがき

柏林大學及柏林商科大學名譽教授 Julius Hirsch は現在、教壇に於いて經營經濟學及び商工業經濟論に關する講義と演習とを擔當する外、自ら理事長として柏林商科大學構内に商業研究所 (Forschungstelle für den Handel) を設立し、一九三〇年一〇月以來、十數名の所員と協力して、月報並びに單行冊子を發行し、小賣企業の運營に對して有益なる經營經濟學的指導を與へてゐる。

一九三一年一月の月報は『在庫品政策の手段としての棚卸見切賣出』を取扱つてゐる。

歐米に於いては、小賣企業が一月中に棚卸見切賣出 (Inventurverkauf, stocktaking clearance sale) を行ふことが、一般的慣習となつてゐて、顧客もよくこの慣習を利用する風がある。我國に於いて冬春の交に行は

れる冬物見切賣出に就いては、商人、顧客の兩者から歐米に於けるそれ程重要な意義が認められてゐない様であるが、右の發表は季節柄、當業者の爲に何等かの参考になると思ふから、其の要領を紹介したいと思ふ。

一、見切賣出の賣上に及ぼす影響

見切賣出は、小賣商業に於いて、賣脚遅き商品を捌き企業の資金流通性を改善する爲に最も重要な手段たるものの一である。抑も、在庫品政策は小賣企業にあつて年中を通じ、不斷に注意を怠るべからざるものであつて、見切賣出は此の政策の要求に著眼する所である。隨つて、藏荷捌の爲にする小賣企業の價格切下は必ずしも年内の一定時期に限つて行はれるものではない。しかし、商人は正月の大棚卸によつて手持額を充分に概觀することが出来るから、年頭には見切賣出の政策が大規模に行はれる機會を與へられる譯である。棚卸見切賣出の施設は、かくて、商人側の欲求から生れ出したものであるが、一定時期の見切賣出に對する顧客大衆の習熟に援けられて、廣く一般的に行はれることになつたのである。

* F. f. H. Mitteilungen, von der Forschungsstelle für den Handel, Berlin, 2. Jahrgang, den 15. Janur 1931.

見切賣出の政策が、賣上額に如何なる影響を與へるかを判斷する爲に、米國ミシガン大學實業調査局、伯林景氣研究所、伯林商業研究所が多數の百貨店及専門店についてなせる調査の結果を第一表に掲げる。

第一表 米、獨百貨店及獨逸専門店の正月賣上額

(月額平均の百分率)

商 品 種 類	(1)	(2)	(3)
	獨逸専門店	獨逸百貨店	米國百貨店
婦人用既製服.....	93	96	86.4
少女用既製服.....		73	
男子用既製服.....		85	
男兒用既製服.....	—	58	57.6
毛皮類.....	—	113	—
婦人用下着類.....	77	101	76.8
靴下類.....	—	62	66.0
男子用下着類.....	69	69	63.6
木綿製品.....	—	125	110.4 ×
			111.6 × ×
			175.3 × × ×
手布類.....	—	86	60.0
靴類.....	72	83	—
敷物類.....	—	99	91.2
窓掛類.....	—	82	68.4
家用物品.....	76	81	69.6 △
砂糖菓子類.....	75	58	—
手藝品類.....	—	—	118.8
編物類.....	—	—	126.1
全店につき.....	—	85	80.4

註 米國百貨店に於ける正月の價格切下は特別に著大だから

小賣企業に於ける棚卸見切賣出

ら、正月の賣上の量的意義は此の數字の中に完全に現はれてゐるものではない。

棚卸見切賣出は、普通は單に二週間に亘つて行はれるに過ぎないから、第一表の如く一箇月全體に關する調査は見切賣出の賣上に及ぼす影響を充分に示すものではない。吾々は見切賣出期間の前後に於ける賣行減退によつて、其の影響がかかる調査の結果の中に相殺されてゐることを知らねばならぬ。しかし、表に見るが如く、正月中の賣上が或種の商品については著しく月額平均を超え、他のものについても左程甚しく平均を降つてゐない所を見ると、これによつて明に賣上に及ぼす棚卸見切賣出の影響を窺ふことが出来るのである。何となれば、正月には何等、季節的需要増加を期待し得べき理由はなく、寧ろ、クリスマス買物の反動として賣上の減少すべきことが考へられるからである。

(註) 我國にはクリスマス買物といふことは歐米に於ける程盛に行はれてゐないが、正月準備としての歳暮の買物がこれに當るであらう。なほ、我國では正月は所謂、もの月として、歳暮に引續いて一般に需要増加の月と考へられ

- 1) Edgar H. Cault, Yearly standandards of Performance for Department stores : 1928-29, Monthly Standards of performance for Department stores : 1928-29, University of Michigan, Ann Arbor, 1930.
- (1) die Forschungs stelle für den Handel の調査
- (2) das Institut für Konjunkturforschung の調査
- (3) das Bureue of business research, university of Michigan, fur das Jahr 1929 „ „

小賣企業に於ける棚卸見切賣出

るから、歐米の事情と異なるものがあると思ふが、これについての確言は正しい實證的研究を要するのである。

二、在庫品の年期と藏拂

勿論、棚卸見切賣出の主要なる目的は賣上の増加ではなく、寧ろそれは正常價格では當分の間賣捌困難と見られる總ての商品の藏拂である。此の種の手持は營業上の處置の誤り、景氣的原因から來る賣行萎縮、天候の影響、流行の變遷、仕入の割高等々によつて、多かれ少かれ、殆んど總ての店に於て見られる所である。

第二表 獨逸の専門店に於ける十二ヶ月以上の年期物の平均率

一九二九年の棚卸（一九三〇年正月）の結果

商業部門	在庫品の百分率
きれ地商	14.0
紡織品百貨店	10.0
靴商	9.6
硝子及陶器商	15.0
鐵物商	13.0

に於いて在庫品中の少かざる部分を占めてゐる。

在庫品を其の年期について分析すれば、小賣企業に於て即時藏拂の要求される程度が判る。第二表、第三表の示すが如く、十二ヶ月以上の年期物が獨逸及び米國の小賣企業

第三十四卷 四六二 第二號 一五二

尤も、正月の棚卸には、かかる超過年期物は殆んど
第三表 米國の百貨店に於ける在庫品の年期

一九二九年の棚卸（一九三〇年正月）の結果

商品の種類	1 6ヶ月以内の年期	2 6-12ヶ月の年期	3 12ヶ月以上の年期	4 在庫品 廻轉度 1929
	全棚卸額の百分率			
毛織物	42.7	20.6	36.7	1.4
家政及臺所着類	65.8	21.6	12.6	2.5
手布類	32.2	12.4	55.4	1.6
手藝品及進物品	83.9	5.7	10.4	2.9
美術用品	44.0	16.6	39.4	1.8
男子用衣服	65.0	16.6	18.4	2.3
男子用衣服	51.7	20.1	28.2	2.3
婦人及少女用外套	48.5	21.7	29.8	2.5
毛皮物	78.6	15.6	5.8	4.8
靴類	60.9	6.2	32.9	3.1
婦人用靴	78.5	13.2	8.3	4.0
小供物類	58.2	24.4	17.1	1.8
窓掛類	59.0	25.5	15.5	1.8
硝子及陶器類	45.2	24.8	30.0	1.7
玩具具	45.4	18.7	35.9	1.2
運動具	49.2	10.0	40.8	2.2
店全體につき	68.9	0.9	30.2	—
	34.9	15.4	49.7	2.8
	61.3	18.5	20.2	

單に冬分にだけ販賣され得るが如き商品に於て最も著しく現はれるもので、それらの品物は既に前年の冬から寢かされてゐるのである。

× 麻織品 ×× 寢具用布 ××× 家政及臺所着 △ 陶器及硝子品
1) 商業研究所の調査
2) ミシガン大學實業調査局の調査

在庫品の廻轉度とその年期との關係も亦第三表によつて明瞭にこれを窺ふことが出来る。即ち、廻轉速度の最も大なる婦人及び少女用外套に於いて超過年期物の率は最も低く、反對に、硝子及陶器類はその廻轉速度が最も小にして、超過年期物の率は最も高い。

三、價格の切下

在庫品が右の如き超過年期物となることを避け、又は年期物を成るべく速に捌くが爲には、かなりの程度に價格の切下を行はなければならぬ。正常價格では此の種の商品の賣行は精々次の新季節の初頭に一縷の望が懸けられるだけで、それも甚しく流行遅れのものに就いては全く賣行の見込はたためない。いづれにしても、在庫品中の年期物は營業上の資金と場所とを塞いで、企業損失發生の原因をつくり、且つ將來の營業處置を施すについての障礙となる。

しかるに、價格の切下は屢々、顧客をして姑く新奇の流行を追ふことを思ひとどまり、價格の割合に品質の優れた商品に對する需要を起さしめ、かくて、超過年

小賣企業に於ける棚卸見切賣出

期物がいち早く季節仕舞迄に處分されることになり易い。前述ミシガン大學實業調查局が多數の米國百貨店について調査した所によれば、價格の切下は、超過年期物が手持總額中に占める割合の最も大なる部門と、流行の變遷激しき商品部門とに於いて最も顯著に現はれてゐる。而して、一月の棚卸見切賣出の爲の價格の切下は既に前年の十二月から行はれ始めることになるから、今、一九二八年の十二月と一九二九年の一月との價格切下の總額を一九二九年一月の賣上總額に對比すれば前者は實に後者の二割八分に當つてゐる。なほ此の兩月の價格切下額は一九二九年度全體の賣上額の一分九厘に相當する。

四、棚卸見切賣出の經濟性

藏拂の目的の爲にする價格の切下によつて、小賣企業の蒙むる犠牲の負擔は前述の如く相當大なるものがある。尤も、價格の切下は、これによつて得られる營業費の節約によつて、多少相殺される所がある。即ち第四表に見るが如く、米國の百貨店に就いての調査に

よれば、見切賣出の爲に少くとも數量的に賣上の増加あるにも不拘、給料費は月額平均以下に止まり、廣告費も僅に増加してゐるに過ぎない。且、在庫品廻轉速度も一月中には月宛平均速度の約三割増になつてゐる。

第四表 米國百貨店に於ける一九二九年³⁾正月の廣告費、人件費及在庫品廻轉度

商 品 種 類	1	2	3
	新聞廣告 新費 月額平均 百分率	販賣係 給料 月額平均 百分率	在庫品 在回轉 月額平均 百分率
毛織物……	141.1	87.6	108.3
麻織物……	184.8	102.0	189.5
寢具用布……	168.0	115.2	160.0
家政及臺所着類……	286.8	139.2	357.1
レース類……	180.0	76.8	330.0
帶布類……	256.9	67.2	115.4
毛系布類……	91.2	68.4	66.7
手藝品……	148.9	81.6	118.2
小兒用衣服……	145.2	132.0	200.0
婦人用外套……	25.2	73.2	47.6
婦人用衣服……	60.0	94.8	75.0
靴下類……	62.4	96.0	142.6
數物類……	78.0	114.0	1112.1
硝子及陶器類……	182.4	99.6	133.3
硝子全體……	25.2	88.8	100.0
店全體……	104.4	94.8	130.4

他面見切賣出の爲の價格切下が小賣企業にとつて如何に大なる負擔をなすかは、前述の如く米國の百貨店に於いて、一九二九年一月の棚卸見切賣出の爲の價格切下は同月總賣上額の二割八分に當たり、それは略々同月の總營業費に匹敵してゐることから察せられる。

されば棚卸見切賣出は、之をそれ自身として觀察すれば、營業上抑も引合ふ仕事なりや否や寧ろ甚だ疑問である。かくてその主要なる意義は、正に此の方策が藏拂を促進する所にあると見なければならぬ。價格切下の犠牲を忍んで見切賣出を行ふに非ざれば、漸く遅々として捌けるに過ぎざるか、或は全く賣捌の見込のたたぬ商品も、之によつて比較的迅速に賣脚がつくのである。右の如き年期物の商品は之を放置すれば徒に資金を拘束し、店舗を塞げ、商店勞務の負擔を増す。

これを要するに、棚卸見切賣出は主として、小賣企業に於いて不運又は過失に基いて起れる手持上の過去の缺陷をば成るべく輕少の損失を以て克服せんが爲の緊急處置と見られるのである。到底、それ自身の中に特別な利潤發生の源が潜んでゐると見ることは出來ない。随つて、小賣企業に於いて、小額にして且つ比較的年期の若き在庫品の存するに過ぎざる場合には、遽に見切賣出を行ふべきものではなく、若しこれを行ふとも小規模の範圍にとどめておかねばならぬ。